

珠玉の風景

このタイトル、誇張でも何でもありません。例えば夏にはリヒテンシュタインの北部、“ルッゲラー・リート”はあたり一面青いアヤメの花が咲き乱れ、華麗な様子を呈します。さらに二千メートルほど高い山は緑のどんな一塊も惜しむがごとく。風景はこの二つの対極に息をのむばかりの変貌を見せます。浮世離れしたたたずまいのアルプスは野生的な溪谷で急激に終止符が打たれ、展開する混合林の中には思いがけずに牧歌的なサンテラスが開けます。接近不能な峡谷には、押し寄せる近代化の波間に緑の太古の世界の名残りが確実に存在。谷の平地には丘陵が遊び戯れるごとく連なり展開し、その真ん中にライン河が帯のごとくのび、その悠久の流れをたたえています。

多彩なコントラスト

かなり強烈なコントラストをなす風景はおのずとリヒテンシュタインでの生活に影響を与えます。宝石の多くのファセットがきらめくごとく……。

かくして政治的な進歩は思慮深いリーダー達によりゆったりとした潮流にゆだねられ、一方、今日の繁栄の礎としての経済は本質的に活発なテンポを保持。そして活気にあるれる文化面は真の愛国心をとうの昔にずっと彼方に押しやってしまいました。

この小綺麗な小国が理解されるとするなら、伝統と現代が織り成す活気ある対照性に対する敬意の念によってのみでしょう。

地上の小さな点

この宝石そのものを先ず見出す必要があります。なぜなら長さ 25 km、幅 6 km、